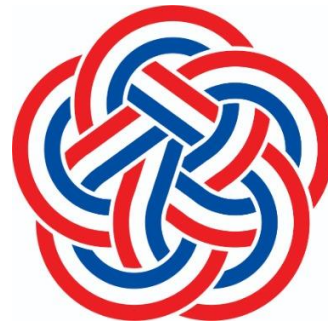


■ 在パラグアイ企業からみた最新のパラグアイ情勢



Cámara Japonesa
de Comercio e Industria en Paraguay
在パラグアイ日本商工会議所



現時点で目ぼしい成果はないが、就任時の公約達成に徐々に着手しており、また外交面では、投資促進を目的としたトップ外交に一定の評価ができる。

未だ批判的な声が多いものの、経済界との意見交換や各分野の専門家との協力姿勢がみられ、今後は実行力の発揮が課題。また政治スキャンダルの影響は要注視。

政権発足後の主な取り組み

2018年8月 政権発足

2018年12月 政権発足100日目

✓ 慣例の「今後の施政方針」を発表せず。

Bad

2019年1月 ダボス会議

✓ 低い法人税等のメリット維持を国際場裏で明言。

✓ 政府サービスのデジタル化(公約)に関するマイクロソフト社との協業を発表。

Good

2019年2、3月 インド、米国、イタリア、パナマ、等の国家元首・閣僚 訪パ

✓ 通商の拡大や投資促進に向けた協議を実行

Good

2019年4月 税制改革案を国会に提出
(内容については賛否あり、要改善)

2019年6月 ベニーテス大統領 訪ボリビア

✓ 両国間の通商強化(1,800万ドル超)合意。

Good

Bad

2019年7月 政治スキャンダル(イタイブダム協定)

✓ 外務大臣をはじめ、電力関係の政府高官が辞任。

政権の主な課題

<課題>

①「輸出拠点パラグアイ」のための投資誘致の継続性。

✓ 投資誘致が生命線、国際場裏でもコミット。
逆行する政策は自己否定、議会の同意は難しい。

= マキラ制度他の法的安定性は高いとみられる。

②利益調整型政治の実行力。

✓ 内政での利害調整。トップ外交の推進。
利害調整がはまれば、自動車協定や税制改革などの重要課題も解決可能。

= 経済界の支持が死活的に重要。経済低迷下での政策により信頼を得るチャンス。
政治スキャンダルの影響が懸念。

③山積するペンディング事項

✓ 内政：司法改革、汚職撲滅 など
✓ 外交：ブラジルとの自動車協定
メルコスール域外国との貿易多角化 など

= 一部に着手するも、構造的な問題も多い。



南米諸国の中でも安定した成長を遂げているも、2018年下半期からの公共工事の遅れに加え、2019年上半期は売電収入の減少(パラナ川水量減)、農牧畜業の鈍化が想定以上となり、通期の成長率見通しは1.5%まで引き下げられた。新規公共事業などの改善要素もみられる一方、投資/控えの傾向もあり、低空飛行が続く見込みだが、セクター別にみると明るい要素も多い。

セクター別 GDP成長率

		2017年	2018年	2019年※
一次産業	農業	7.9	2	-4
	牧畜	2.9	-2.4	-1.3
	農林水産・鉱業	-1.7	2.4	-5.9
	合計	6	1.2	-3.7
二次産業	製造	6.2	3.7	-0.1
	建設	3.5	0.2	3.1
	電気・水	-2.5	1.5	-4.2
	合計	3.5	2.6	-0.5
三次産業	商業	10.6	7.4	-2.2
	輸送	7.8	-1.2	2
	情報通信	5.5	5	4.7
	金融・保険	0.5	4.9	7
	不動産	4.7	2.9	4.8
	企業向サービス	3.8	3.4	3.5
	飲食・ホテル	6.8	8	7.8
	個人向サービス	5.6	8	7.5
	公務	1.6	6	6.5
	合計	5.3	5.3	3.9
	GDP全体	5	3.7	1.5

現地企業・有識者の声

市況や天候に恵まれた2017,18年と比較し、輸出の数値上のマイナスが大きい。但し、生産量が順調に増加している農産物も多く、悲観はしていない。



製造業全体での成長率は鈍化しているが、マキラ制度を活用した輸出は安定して伸びている。まだ規模は小さいが、更なる成長が見込まれる。



第一四半期は、報道で言われているほど、アルゼンチン・ブラジル経済鈍化の影響は大きくなかった。しかし景気悪化が叫ばれ、心理的要因で投資・消費が減退している。



(出典)パラグアイ中央銀行。※予測値



農業：各種農産物の生産は増加するも、市況価格によるボラティリティを受けやすく、加工などの高付加価値化にチャンス。政府の政策も生産量・価格に影響し、安定性が課題。

牧畜：チャコ地方を中心に成長著しいが、輸出制度等の整備が更なる成長・輸出に必要。

農牧畜業の現況

<業界構造>

大規模農家

例) コモディティ(大豆、小麦etc.)、
牧畜など

小規模農家

胡麻、チア、蔬菜、
マテ茶など

生産性



高



低

成長性



高



中高

競争



激しい



中※

※但し、小農との事業は管理難易度が高く、
ローカルネットワークを持つ企業が強い。

<地理的分布>

西部地方
(チャコ地方)

牧畜業中心



東部地方

農業中心

更なる成長に必要な課題

<課題>

①ボラティリティが高い(市況・政策の影響)。

- ✓ 一次産品輸出が多く、市況変動を受けやすい。
- ✓ 小規模農家中心の品目は、政府による補助の有無で生産量・価格に影響がでる。

= 加工業への投資にチャンス。

徐々に取り組む企業が増加しているものの、
未だ投資は少なく、競争が激しくない。

②政府のガイドライン・輸出制度などが未整備

- ✓ 多くの品目で生産量が増えているものの、輸出品目が相手国の基準を満たしていないケースあり。
例) 牛肉：一部企業によるロシア輸出が一時差止。
理由は、特定抗生物質の利用。

= 様々な品目にチャンス。しかし、輸出品目は、
グローバル基準を満たすため、ガイドライン
を政府が制定するなど、早期の施策が不可欠。

※注) 一部品目は、日本政府・パラグアイ政府間で、
検査基準や輸出制度が整備されており、輸出に貢献。



パラグアイは労働集約型産業に強みがあり、特にマキラ制度による輸出は経済動向にかかわらず、安定的に増加している。政府の投資インセンティブに加え、税金の安さ、雇用環境の安定度(労働ストライキがほぼ無い)など、進出メリットは中南米随一。法整備や政府組織の改善によって、更なる成長が期待できる。

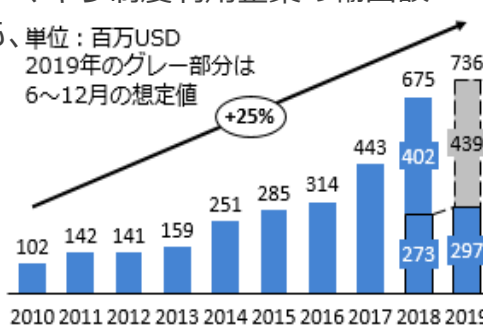
商工業の現況

<マキラ制度>

- ✓ 中南米経済の低迷下も、一貫して増加。

- ✓ 輸出先は、約90%がメルコスール。

マキラ制度利用企業の輸出額



(出典)パラグアイ工商省

<メリット一覧>

政治

- 親ビジネス政権の継続(2003年以降)
- **政府インセンティブ** (マキラ制度等)

経済・産業

マクロ

- 安定した経済政策。(通貨、物価が安定)

ミクロ

- **低い事業コスト** (電力、税制、賃金)
- メルコスール域内関税なし

社会

- 穏健且つ勤勉な国民性 (**労働争議なし**)
- 良好な治安

技術

- 手工業の水準の高さ

メリット

更なる成長に必要な課題

<課題>

①法整備の未熟さ、行政対応の遅さ

- ✓ 日本水準と比して守るべき基準が低い法制度。
- ✓ 輸出入時の許認可・手続きの遅さ、縦割り組織。

②広義の知的財産保護

- ✓ 密輸や模倣品により、正規品の販売が圧迫される。制度設計に加え、運用・取締りが重要。

<ボトルネック一覧>

政治

- **未熟な法制度、許認可/手続きの遅延**
- **知的財産保護。縦割り組織。**
- 汚職

経済・産業

マクロ

- 健全な財政政策ゆえの借款利用率の低さ

ミクロ

- 送配電網を含む、産業インフラの未熟さ

社会

技術

- 管理職・技術人材の不足

ボトルネック



〈パラグアイの対中南米輸出額〉

対中南米向け輸出額

2017年 約49億ドル

-2010年比 25%増

(参考)

中南米域内の貿易総額

2017年 約274億ドル

-2010年比 △18%減



■ メルコスール：パラグアイ、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル、ベネズエラ(一時停止中)

■ 太平洋同盟：コロンビア、チリ、ペルー、メキシコ

対ブラジル向け輸出額

2017年 約28億ドル

-2010年比 26%増

対アルゼンチン向け輸出額

2017年 約11億ドル

-2010年比 204%増

(出典) World Integrated Trade Solution

〈事業コスト比較〉

比較項目(USD)			アスンシオン (パラグアイ)	中南米7都市 平均 (*)	ASEAN6か国 平均 (**)
電力	業務用電気料金 (1kW当たり)		0.02	0.10	0.11
	一般用電気料金 (1kW当たり)		0.06	0.14	0.09
税制	法人所得税 (表面税率)		10%	10～35%	18～30%
	個人所得税 (最高税率)		10%	10～36%	25～35%
賃金	製造業	ワーカー (一般工職) (月額)	340	782	262
		エンジニア (中堅技術者) (月額)	1,380	2,403	484
		中間管理職 (課長クラス) (月額)	1,730	4,525	1,046

(出典)JETRO投資コスト比較



金融・保険：中央銀行の金融改革により業界が健全化し、安定した成長を遂げている。
 観光：観光資源の開発やホテル等の整備に政府・企業が取り組むも効果は薄く、中南米他国の旅行とのパッケージ化や旅行コンセプトの先鋭化といった対策に取り組む必要あり。
 その他：飲食・ホテル業界の競争が徐々に激化している。教育業界にもポテンシャルあり。

サービス業の現況

<総論>

- ✓ 主要産業である農業が低迷する中でも、**三次産業がパラグアイ経済を牽引**している。
- ✓ 全ての分野でポテンシャルがあるも、ブラジル、アルゼンチン企業を中心に、様々な国からの投資が増加しており、競争が激しくなっている。

<三次産業 GDP成長率>

※予測値

		2017年	2018年	2019年※
三次産業	商業	10.6	7.4	-2.2
	輸送	7.8	-1.2	2
	情報通信	5.5	5	4.7
	金融・保険	0.5	4.9	7
	不動産	4.7	2.9	4.8
	企業向サービス	3.8	3.4	3.5
	飲食・ホテル	6.8	8	7.8
	個人向サービス	5.6	8	7.5
	公務	1.6	6	6.5
合計		5.3	5.3	3.9

(出典) パラグアイ中央銀行

更なる成長に必要な課題

<課題>

①中央銀行を軸とし、金融業界の健全化が進んでいるも、ネガティブイメージが払拭されていない。

- ✓ 中銀による監督制度の厳格化により、**市銀の経営レベルが高位に安定**。
マネロン規制も強化されている。

= 中銀は国際的な評価が高く、安定した為替・インフレにより、**経済基盤の安定性が高い**。

②優秀な人材不足(全産業共通)。

- ✓ 多言語、マネジメント、技術人材の確保が難しい。
一方で、人材育成を目的としたビジネスにはチャンス。

= 管理職・技術者はブラジル人を活用する企業も多い(ポルトガル語で仕事ができる機会も多い)。相互の行き来が容易で、**ブラジル進出企業はパラグアイ進出のハードルが低い**。



会員企業の声



- ✓ 日本大使館との距離が近い。困りごとを相談しやすい。
- ✓ パラグアイ政府の閣僚と密に連携できる。
- ✓ フロレンティン大使が、民間企業を親身に支援してくれる。



- ✓ 住んでわかる治安の良さ。
- ✓ 物価が安い。
- ✓ 日本人学校があり、きめ細かい教育を受けられる。



- ✓ 日系人医師が多い。
- ✓ 駐在員も安心してできるレベルの高い病院がある。



- ✓ 法人の設立コストが低い。
- ✓ 若い労働力が多い。工場労働者が雇いやすい。

内山工業株式会社の事例

＜企業概要＞

本社：岡山

業種：自動車部品・建材など

「密封と絶縁」技術を用いたガスケット、シール等を扱うメーカー。
グローバルにビジネスを展開し、国内・海外シェアの高い製品を複数擁する。

進出：2016年

取組：中南米には工場を有していないが、パラグアイを同地域での販売拠点として活用している。

＜パラグアイに進出した理由＞

パラグアイに事務所を設置した理由は、**事業コストの低さ**（低い人件費、安い税金、労働問題の極少さ）。

また治安の良さや日本人学校の存在も、駐在員にとって重要な要素。

出張の多い仕事なので、**家族が安心して住める環境**なのは嬉しい。

